



説教要旨「神はあなたを諦めない」

士師記 13 章 2～14 節

フィリピの信徒への手紙 4 章 4－9 節

旧約聖書の士師記に登場する士師（英雄）の一人、サムソンの誕生秘話が士師記 13 章には記されています。サムソンの母は不妊の女でした。子宝に恵まれること、それは神からの恵みの最たるものとされていました。それは裏を返せば、子がないことは神に愛されていないことの証しとされていたということです。子のないサムソンの母も、神から愛されていない、神に見放された者だと、周囲からみなされていたし、おそらく自分自身もそう思っていたことでしょう。しかし神は、私たち人間の常識など軽々越えて働かれます。「子のない女を家に返し、子を持つ母の喜びを与えて」（詩編 113:9）くださり、救いの先駆者としてサムソンは生を受けたのです。それは、最も高いところにおられる神が、最も低いところに来られるという救いの出来事です。

伝道者パウロは、フィリピの信徒へあてたこの手紙で「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい」（4:4）と呼びかけています。その喜びの根拠は、「主はすぐ近くに」（4:5）おられるということにあります。

わたしたちは、苦しみ悩みの時、悲しみの時、そして自分の罪を覚える時、祈ることさえ出来ない時、神が遠く離れておられるのではないかと、感じる場合があります。幸せな時には神さまを近くに感じ、苦境に立たされた時には神さまが遠く離れてしまっているように感じるのです。苦しみの中で、神に見捨てられてしまったのではないかと考えることさえあります。しかし「主はすぐ近くに」おられるのです。どんなに孤独に思えても、主は近くに寄り添って、その苦しみを、その悩みを一緒に担ってくださっているのです。

神に見捨てられたと叫ぶ、最も神から遠く離れたところへ、救い主は来てくださいました。そして、神の御子である方が、わたしの罪のゆえに十字架にかけられ、わたしの身代わりとして死んでくださったのです。

“主が共にいてくださる” このインマヌエルの喜び満たされて、歩みだしてまいりましょう。